

農地機構だより

～人と農地をつなぐ～ 第24号

(公財)しまね農業振興公社

(農地バンク)

2020年10月 発行

松江市黒田町432番地1

0852-20-2871

今回は津和野町の個人農家3名の方を紹介します

(インタビュアー：県公社 平塚、中川、江上)

吉田 茂さん 認定農業者・つわの栗生産推進研究会会長・津和野栗生産部会副会長

●品目…栗、水稻、茶、ゆず など

Q 中間管理事業を活用するきっかけは？

A 受け手一人に対し所有者が何人もいるので、相対だと個人間の手続きが大変。事務手続きが楽になると思い、活用した。

Q 中間管理事業のメリットは？

A 公社とだけ契約をすれば良いので、営農に集中できるようになった。

また、新規就農者は顔見知りがないので、公的機関が間に入った方が安心して農地を借りられると思う。

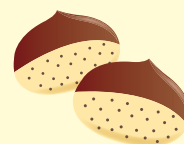
現場の相談員も相談がしやすく、心強い。とても助けてもらった。

Q 今後の営農計画は？

A 栗の面積を広げたい。現在は研修生もいる。



津和野町瀧元休耕田再生農地(62a)



●平成30年度園芸型高収益作物導入実践支援事業(園芸作物導入支援事業)を利用され休耕田を再生有効利用。出し手へは耕作者集積協力金(R1年まで)の対象となりました。

増子 淳一さん

●品目…ミニトマト、なす など

Q 津和野町へ1ターンするきっかけは？

A もともとわさびを栽培したかったので県へ問い合わせをしたところ、公社、津和野町を紹介されたことがきっかけ。

Q 中間管理事業を活用するきっかけは？

A 今まで相対だったが、そのときは所有者を一軒一軒回って契約に関する話し合いや、賃料の支払いをするのは大変だった。



津和野町上横道トマトハウス

家に行っても留守で支払いができず、トラブルになったこともあった。
中間管理事業であれば、公社が所有者との調整をしてくれるし、契約も相対に比べて楽にできるから。
就農当初は、公社や中間管理事業の実態がわからず、良いイメージはなかった。しかし、親身に相談に乗ってもらえるし、結果、今の経営地がある。今はイメージが変わった。これからもサポートをお願いしたい。

Q 公社に望むことは？

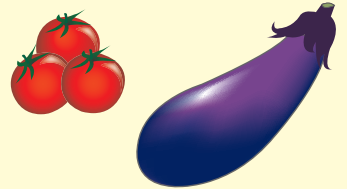
A ネットをもっと活用してほしい。例えば、地図システムを利用して、空いている農地やほ場の状態、水利の状態などがわかるようになればすごく助かる。

Q 今後の営農計画は？

A 個人ではまわせない規模になってきているので、従業員を雇って収量も上げたい。
露地は温度、虫、連作障害などの問題があるので、冬から春にかけてハウスでできるものを探している。
エコファームも考えている

Q 新規就農を目指す方に一言

A 草刈りは大変だが農業は楽しい。
地域の家や農地に空きがあるかが重要なポイント。



●農業次世代人材投資資金（経営開始型）を利用

永田 恭一さん

- 品目…キャベツ、人参、レタスとサニーレタス
- 人数…家族がメイン、臨時雇用が年間2～3人程度

Q 中間管理事業を活用するメリットは？

A 事務負担がかなり軽くなった。年度末に作付計画や機械のメンテナンスに時間を割くことができる。

Q 関係機関等に対する要望は？

A 畑地は水田より作土が深くないと生育に影響が出る。
水田転作が進められているが、給排水設備の不足や礫が浅い層にあり、畑地化にコストがかかる圃場が多い。
公社が借り受ける農地に対して、給水施設の設置やソイラなどによる簡易排水対策、作土25cm以上の確保や除礫の実施について、行政、JA、公社等関係機関で連携を強化し、できる限り関連する補助事業の活用を図ってほしい。



津和野町笹山 キャベツ畑(30a) 奥様と

Q 今後の営農計画は？

A 人参は今後数年で10ha以上にすることを目標に考えている。
レタスとサニーレタスは、販路の課題が解決できれば数年内に耕作地で50a、延べ面積で1ha以上に広げたい。
労働者が周年雇用も選択できるように2品目程度の追加も目指す。



●認定新規就農者 農業次世代人材投資資金（経営開始型）を利用

編集後記



今回は個人農業者の紹介です。当地は全国初の集落営農組織による農事組合法人や13法人の集落営農組織の広域連携法人「わくわくつわの協同組合」が存在します。個人新規就農者が法人からの情報紹介や法人経営地の権利移転など個人と法人との連携もあります。

取材協力関係者方々へ：当日は猛暑、またご多忙のところご協力いただきまことにありがとうございます。
(S・E)

